
2024年度の広報活動について

公益社団法人リース事業協会

はじめに

公益社団法人リース事業協会(以下、「協会」という。)の広報調査委員会では、リース事業に関する理解促進を図るための広報活動を行っています。

昨今、サステナビリティに関する対応が求められていることもあり、2023年4月に協会ホームページ上に「サステナビリティへの取り組み」に関する特設ページを開設しました。

また、経済界においてリースに関する認知度が一定程度まで高まってきたこともあり、近年の広報活動では、大学生を対象としたワークショップを開催し、若年層への理解促進に力をいれてきました。

2023年度から、わが国において初めて「リースを網羅的に学ぶ場」として早稲田大学商学部寄附講座を開講しています。

本稿では、協会ホームページ内に開設している「サステナビリティへの取り組み」に関するご案内および、2024年度に実施した早稲田大学商学部寄附講座の概要について報告いたします。

1. 「サステナビリティへの取り組み」特設ページ

様々な課題をかかえる現代、温暖化などの環境に関する問題、人権、限りある資源の有効利用のための資源循環への取り組みの必要性など、サステナビリティに関する取り組み

を一層進めていくことが求められています。

リース業界ではすでに各社において様々な取り組みが進められています。

協会では、リース業界が成長してきた過程をサステナビリティの視点から振り返り、改めてリース業界が社会課題にどのように貢献できるかを整理し、あわせて正会員の取組事例を公表する場を設けることを目的とし、2023年4月25日に協会のホームページ内に特設ページを開設しました。

この特設ページは、学生から様々なステークホルダーまで、どなたに対してもリース業界における取り組みが伝わるよう、わかりやすい言葉で簡潔に表現することを目的として作られています。

特設ページ「サステナビリティへの取り組み」では、以下の6つの項目でリース業界とサステナビリティへの関係を整理しています。

- ①リースとサステナビリティ
- ②リースと資源循環
- ③リースと官公庁
- ④リースと企業
- ⑤各リース会社の取組
- ⑥リース事業協会の取組

特に、「⑤各リース会社の取組」では、当協会の正会員における取組事例を「事業における取り組み」と「非事業における取り組み(寄附・ボランティア等)」に分けた一覧表(1社につきそれぞれ7事例まで)をPDFファ

イルとエクセルファイルで掲載していますので、リース会社名・取組のカテゴリー（環境・社会・経済・その他）・地域等で検索・ソートをすることができます。

当協会正会員の取組事例調査は、毎年1回実施し、取りまとめ結果を8月にホームページ上に公開します。

＊「サステナビリティへの取り組み」特設ページ
(<https://www.leasing.or.jp/sustainability/>)

2. 寄附講座概要

全14回の講義のうち、第1回では講座に関するガイダンスとリース概論の講義を行い、第2回以降の講義内容を紹介しました。

第2回・第3回ではリース入門として、リースに関する基本的な用語・知識・情報をお伝えしました。

多くの講義では、全100分の講義時間を2コマに分け、リース業界を取り巻く多様なステークホルダーおよびリース会社の専門職員を講師にお招きして、様々な角度からリースに関する講義をしていただき、第13回では、協会会長の新分敬人氏（JA三井リース(株)社長）にもご登壇いただきました。

1回の講義を2コマに分け、各界から多彩な講師陣にご登壇いただいたことで、受講生



も集中力を維持しながら、興味深く受講することができたと考えています。

また、学生同士が交流し、主体的に参加することができるワークショップは、昨年度、学生に大変好評でしたので、今年度も第12回にワークショップ形式での講義を設けました。

今年度のワークショップでは、リース会社社員と学生とが直接話し合える時間をできる限り多くとるため、授業冒頭から学生にグループワーク用にゾーニングされた7つのエリアに着席いただき、そこへリース会社社員が入っていただく形で進めました。

ワークショップの構成は下記2部構成で実施しました。

①リース会社社員からの説明と質疑応答

リース業界・リース会社の魅力（仕事、やりがい、職場、会社としての働きやすさ）について、リース会社6社7名の担当者から説明したほか、実際に一日をどのようなスケジュールで働いているかをご紹介いただきました。

②グループワーク

「リース業界またはリース会社の魅力をSNSで発信する」をテーマとするグループワークを実施し、その成果として、グループ毎にXを想定したポスト案（140文字以内）を作成し、全作品を発表いただきました。就活生をターゲットとし、リース（会社）の魅力を伝える趣旨の作品が多くありました。

今までの講義で得た知識やリース会社社員の説明を聞いたうえで、発信先のターゲットに対し、わかりやすく印象に残る表現を各グループのメンバーが創意工夫をこらしながら作成する様子が伝わる作品となりました。

2024年度 秋学期 早稲田大学商学部寄附講座概要

科目名	公益社団法人リース事業協会寄附講座 サステナブルな社会を創るリース
担当教員	新井 剛 教授
学期等	秋学期（2024年10月8日～2025年1月21日） 火曜日3限 13:10～14:50（100分授業） 計14回
講義形式	対面による講義
配当年次	1年生以上（オープン科目：他学部の学生も受講可能）
平均出席者数	144.8名

履修登録者数合計：196名	学 年	
	1年生：18名（9.2%）	3年生：76名（38.8%）
	2年生：59名（30.1%）	4年生以上：43名（21.9%）
	学 部	
	商学部：148名（75.5%）	スポーツ科学部：4名（2.0%）
	政治経済学部：18名（9.2%）	法学部：3名（1.5%）
	教育学部：8名（4.1%）	文化構想学部：3名（1.5%）
	社会科学部：6名（3.1%）	国際教養学部：1名（0.5%）
	文学部：4名（2.0%）	人間科学部：1名（0.5%）

本講座は2単位を取得することが出来る講座で、成績評価は、課題レポートでの評価60点および平常点（出席・講義後レポート）での評価40点となります。

単位取得に必要な「課題レポート」の概要は下記のとおりとなります。

- ①テーマ：「新しいリースの形」
- ②内容：新しいリースの形やサービスを考え、そのターゲットおよびサービスの仕組みを解説し、そのサービスに関するマーケットの規模（現状と将来予測）、当該マーケットにリースを普及させるためのポイント等をわかりやすく簡潔に考察する。
- ③字数：1,000字以上（A4 2枚程度・図表使用可）
- ④締め切り：2025年1月6日（月）
- ⑤賞：最優秀賞1名、優秀賞1～3名、佳

作1～5名

課題レポートは、合計168レポートが提出されました。

公平性を担保するために、課題レポートには受講者の個人情報は一切含まれない状態で早稲田大学商学部事務局からご提供いただき、評価を行いました。

レポートは、協会・広報調査委員会の正副委員長5名および協会事務局により評価を行い、新井教授へ提案し、受賞者を決定しました。

評価は下記の項目で行われました。

- ①独創性
- ②実現性
- ③経済効果
- ④社会課題に対する効果
- ⑤サプライチェーンとの協働性 等

回数	テーマ	講師（敬称略）
1	講義ガイダンス	商学部教授 新井剛
	リース概論	公益社団法人リース事業協会 事務局長 加藤建治
2	リース入門①	公益社団法人リース事業協会 事務局長 加藤建治
3	リース入門②	公益社団法人リース事業協会 事務局長 加藤建治
4	リース会社の実務① 自動車リース	自動車リース委員会副委員長 住友三井オートサービス株式会社 サステナビリティ推進部長兼経営企画部部長付 原昌伸
	再エネビジネス	みずほリース株式会社 常務執行役員 船川一臣
5	リース会社の実務② 国際リース	国際委員会副委員長 オリックス株式会社 海外事業統括グループ戦略企画チーム シニアヴァイスプレジデント 湯浅直之
	航空機リース	三菱HCキャピタル株式会社 航空事業部長 松下盛一
6	地方創生とリース	静銀リース株式会社 取締役常務執行役員 池田正嗣
	リースの活用事例	株式会社フジドリームエアラインズ 経営企画部長 吉英樹
7	農業法人から見たリースの活用例	有限会社トップリバー 取締役会長 嶋崎田鶴子
	ベンチャー企業とリース会社の連携	株式会社フェイガー CEO 石崎真紘
8	リース会社のサステナビリティ活動Ⅰ	東京センチュリー株式会社 広報IR部長 河井健吾
	リース会社のサステナビリティ活動Ⅱ	三井住友ファイナンス&リース株式会社 理事広報IR部長 飯野道恵
	リース事業協会の社会貢献活動	公益社団法人リース事業協会 企画部課長 廣澤且巳
	課題レポートの説明	公益社団法人リース事業協会 事務局長 加藤建治
9	リースの会計・税制	会計税制委員会委員長 東京センチュリー株式会社 取締役専務執行役員経理部門長（兼）経営企画部門長 平崎達也
	リース会社の法務	法制委員会副委員長 JA三井リース株式会社 法務部長 小宮夕紀
10	リースと環境	環境委員会副委員長 株式会社FGLリースアップ・ビジネスサービス 代表取締役社長 古原由美子
	リサイクル会社から見たリース	株式会社リーテム 取締役エコマネジメントユニットユニット長 浦出陽子
11	産業政策とリース	経済産業省消費経済企画室係長 武元哲
	環境政策とリース	環境省大臣官房環境経済課環境金融推進室室長補佐 湯浅翔
12	ワークショップ	広報調査委員会委員会社 ・JA三井リース株式会社 経営管理部広報IR室長 高橋玲子 ・株式会社SBI新生銀行 グループ人事部【昭和リース株式会社から出向】 齋藤昌太 ・NECキャピタルソリューション株式会社 人事総務部 栗原璃莉 ・三井住友トラスト・パナソニックファイナンス株式会社 不動産金融ソリューション部 吉井雄太、人事部 堤晃汰 ・リコーリース株式会社 経営管理本部経営企画部経営管理室長 河下一平 ・りそなリース株式会社 営業開発部副部長 上農大裕 ・進行：公益社団法人リース事業協会 企画部課長 廣澤且巳
13	リース産業の将来展望	公益社団法人リース事業協会会長 JA三井リース株式会社 代表取締役社長 新分敬人
14	課題レポート表彰 受賞者プレゼンテーション 総評 講義の振り返り	・商学部教授 新井剛 ・広報調査委員会委員長 JA三井リース株式会社 経営管理部広報IR室長 高橋玲子 ・公益社団法人リース事業協会 事務局長 加藤建治

*2024年度秋学期早稲田大学寄附講座に関する情報は当協会ホームページの「早稲田大学寄附講座」へ掲載しています。
(<https://www.leasing.or.jp/workshop/index.html>)

おわりに

今年度は2回目となる寄附講座でしたが、毎年、受講生のカラーは異なることを感じる一方、学生から提出される講義後レポートの内容については、昨年度と同様に、講義内容の理解度と質問内容のレベルの高さに驚かされました。

講義内容でわからないことは積極的にインターネット等で調べたり、講義についての改善点も、講義後レポートやアンケートの中でご提案いただきました。受講者の学びに対する真摯な姿勢は、講義の準備をする協会スタッフだけでなく、講義を担当いただいた外部講師やリース会社の方に新鮮な驚きとともに、同じ時間をともに学べたことへの満足感を与えてくれました。

ワークショップにおいて、リース会社社員の話当真に聞きながら質問をし、グループワークで互いの意見を引き出しあい、一つの

作品を創っていく様子は学生たちの瑞々しいパワーを感じるものでした。

受講生の将来に、この講座での学びがお役に立てることを願っています。

最後となりましたが、新井教授によるご指導および早稲田大学商学部事務局スタッフの方々によるサポートにより全講義を円滑に進めることができましたことへ、御礼申し上げます。

あわせて、講師をご担当いただいた企業および官公庁・関係者の皆様・リース会社関係者の皆様、お忙しい中、より良い講義とするためにご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

広報調査委員会では、本寄附講座が受講生に対し、リースに関する理解促進効果があったと評価し、来年度も寄附講座を開講します。

関係各位におかれましては、引き続きご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

早稲田大学商学部寄附講座におけるワークショップのアウトプット（SNSへのポスト作品）および課題レポート「新しいリースの形」に関する受賞者とテーマ・概要、受講者の感想、担当講師の感想は、本稿の最後に【参考資料】としてご紹介しています。

【参考情報】 広報調査委員会委員会社

JA三井リース(株)、東京センチュリー(株)、芙蓉総合リース(株)、みずほリース(株)、三菱HCキャピタル(株)
NECキャピタルソリューション(株)、NTT・TCリース(株)、オリックス(株)、昭和リース(株)、東銀リース(株)
三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)、三井住友ファイナンス&リース(株)、リコーリース(株)
りそなリース(株)

以上14社

【参考資料】

第12回ワークショップ SNSへのポスト作品（一部抜粋）

—— ポスト ——

「挑戦を応援できる！！」
→少ない資金でビジネスができる。企業のビジネスパートナーに。
「商材が豊富！！」
→イスから飛行機まで、あらゆるモノをリースの商材に。
「サステナブル！！」
→リースとして使ったモノを再利用できる！

—— ポスト ——

⚠️やりたい事が見つからない就活生必見！！⚠️
リースのやりがい3箇条
リース業界で世界を動かせる
1年目から数億規模
すみ続けられる環境へ

—— こだわりポイント ——

- ・リースの大事なポイントを詰め込みました。
- ・分かりやすいキャッチコピーにまとめました。
- ・丹精込めて作りました。

—— こだわりポイント ——

縦読みでリースを表現

—— ポスト ——

リース業界をオススメしたい5つの理由
・様々な業界と関われる
・顧客と長期的な関係を築ける
・法人営業のため土日祝が休み
・SDGsとの親和性が高い
・自社の物件を実際に目にする機会が多い

#26卒 #27卒 #リース好きとつながりたい

—— ポスト ——

就活迷ってるならリース業界がおすすめ

様々な業界・人と関わりたい人
まだ業界を絞り切れてない人
残業をあまりしたくない、ホワイト思考な人
金融・ITなど様々な知識を得てスキルを身につけたい人
中堅・中小企業をリースで支えたい人

可能性無限大のリース業界で一步先の未来をつくりませんか
#26卒 #27卒

—— こだわりポイント ——

ハッシュタグを使用して、拡散力アップ
箇条書きで見やすく
発信元：内定者 発信先：就活生に設定

—— こだわりポイント ——

就活生・学生でリース業界のことをある程度知っているがまだ迷っている人向けに発信している という設定で考えました。
#ちょっと入れてみました。

課題レポート：受賞者およびテーマ・レポート概要一覧

	氏名	学部	学年	テーマ・レポート概要
最優秀賞	高田 恭佑	商学部	2	【未来を変える「遊具発電リース」の可能性】 遊具発電のリースに着目する独創性とこれによる普及の可能性を検討し、社会課題解決の提案がされている。加えてサーキュラーエコノミーに関する考察がされている。
優秀賞	池田 隼	商学部	2	【メタネーションの活用によるCO₂排出量削減を目的としたカーボンニュートラル社会実現に向けたリース事業案】 最新の脱炭素の技術に着目し、リースを活用した普及策が考察され、更に中小企業へ普及するための施策が考察されている。
優秀賞	奥山 礼翔	商学部	2	【備蓄リースで守る命と日本の未来】 防災用品や食料といった新たな視点でリースの発展形である取引に関する提案がされている。フードロス対策もしっかりと考察されている。
優秀賞	渡邊 美暉彦	商学部	4	【水素を活用した循環型社会実現のためのリース】 リースを活用した水素関連設備の普及に加えて、リース会社の再エネ設備に注目して、これを活用した水素生成の提案がされている。
佳作	岩本 淳志	商学部	3	【獣害対策のリース】 近年課題となっている里山の再生・獣害対策に着目し、リースを活用した施設整備に関する提案がされている。
佳作	渡邊 篤	商学部	4	【キャベツ農家×「ZERO CO」ー日本の食品ロス、農業サプライチェーンの早期革新ー】 食品ロス・農業経営の安定化・サプライチェーンを考察して、野菜の低温保管庫をリースで普及させていく提案がされている。
佳作	村田 歩夢	商学部	3	【カーボン・クレジットを用いたエコドライブ支援自動車リースの提案】 エコドライブによるCO ₂ 排出削減とカーボンクレジットを組み合わせた新たな自動車リース商品の提案がされている。
佳作	小林 茉桜	商学部	4	【VRゴーグルのリースで教育格差を是正する】 教育格差を生む要因を分析した上で、これを解消するための機器としてVRゴーグルをリースにより普及する提案がされている。
佳作	江山 諒	商学部	3	【不登校学生支援リース】 不登校児童生徒の課題に着目し、メタバース関連設備のリースによる解決策が提案されている。

受講者の感想（一部抜粋）

出典：「学生授業アンケート」早稲田大学商学部事務局

- 学生にとって、なじみの薄いリースについてたくさんを知ることが出来ると共に、それが、いかにして社会的関心の高いサステナビリティに活かされているのかを考えられた。また、「ビジネス」が収益性という点で一見して対立しそうな「サステナビリティ」とどのように共存しうるのかを実社会にあわせて確認、理解することが出来たとともに学びになった。
- リース業界について知っている人は少ないと思った。就活中の私の周囲の学生や、すでに社会人である家族でもそのように感じている。知名度がまだ高くない業界についてここまで詳しく学習することができたのはとても有意義だった。
- 様々な業界の方々からお話を伺う中で、共通する点について話題が出た際には、リースビジネスにおいてその点が強調されていることを感じる事ができた。
- リースという、義務教育では全くと言って触れないような分野に関してここまで深く学べる機会は他の大学を見てもなかなか見受けられないため、非常に有意義なものだと感じる。
- リースというのは、レンタルと何が違うのかというところから始まり、だんだんとどういうところにリースが価値があるのかわかるようになった。しかし、内容が難しいところも多くあり、今振り返ると内容の半分理解できてるかなぐらいの理解度だと思う。その原因は、内容が難しくなるにつれて、理解したくても、その場での理解が難しいところが多くなったからだと感じる。
- 牽引する企業から実際に仕事をしている方々の話は大変刺激的で面白く感じた。私自身、今まで触れてこなかったリースに触れることで今後他の学問と結びつけることができることが一番有意義だと感じる。
- 何気なくとったこの講座で、はじめてリースという事業について詳しく知り、考えるきっかけとなり、とても有意義だったと感じている。儲かるビジネスにばかりフォーカスするのではなく、社会の仕組みを作っていくビジネスの形を学ぶことが出来たのは、私にとって大きな転換点になるような講座だった。
- 授業内で、様々な企業の方のお話を沢山聞く事ができ珍しい授業だと思った。リースについて全く知らなかったがたくさんの知識を得ることが出来た。
- 最終レポートでは、特にリースを活かせるビジネスを考えたことで、社会課題に貢献できるリース事業であることを感じる事ができた。
- 回によっては初学者には理解が難しかったり、構造的側面を一方向的に説明している部分があったため少し残念に感じた。アカデミックな観点から少し離れた実践的な話をもう少し聞きたい。農業ベンチャーの回は理想的な回だった。
- 講義中に出てくる言葉や制度は聞いたことがない言葉も多く授業のスピードと自分の理解が追いつかない部分が多々あった。ただ、様々な方面からの話を聞き、実際にどのように使用されているのかや今後どのように使われて行くのかなどについて知ることができとても興味深い講義だった。
- リースという普段触れることのない業界に講義を通じて知ることができた。また、講義内でのディスカッションやレポートを通じて、受け身になりインプットだけを行うのではなく、実際に自らアウトプットを生み出すことで、リース業界への当事者意識が生まれた。

（ワークショップ）

- ワークショップが楽しかった。受講生同士でコミュニケーションが取れただけでなく、リースの魅力を再発見できた。
- 第12回のワークショップのような時間を来年以降もぜひ実施してほしいと思う。自身も企業の社員の方がグループにつき1人、ついて頂くことで、全体の間では質問できなかった疑問を解消することが出来たので、ぜひ続けてほしい。
- グループワークがとても有意義に感じた。自分では思いつかないような考えを知ることができて面白かった。少人数のグループワークだったのでグループのメンバーはみんな発言していた。講義後の質問や発言は少人数グループで話し合いをした後であれば増えるのではないかと思った。

担当講師の感想（一部抜粋）

出典：「講師アンケート」公益社団法人リース事業協会

- 多くの学生が、リース会社とその業務内容に関心をもって講義に臨んでいる印象を受けた。学年によってリースの理解度や関心度合いに差はあるかと思うが、一連の講義を通じて、リース業界／業務の理解を深めてもらえれば幸いだ。
- 講義後のレポートやそこでの質問を見る限り、良く講義のテーマを理解しておられるし講義中のおとなしさとの違いが少し気になった。ライブでの講義のアドバンテージを今後はより活用して頂ければと思う。
- SDGsやサステナビリティといった考えかたが身に着いており、意識の高さを感じた。
- リースの基本業務は理解している学生が大半。その上で、社会課題解決や社会貢献においてリース業界がどのような役割を果たせるのか？という点においても高い関心を寄せていると感じた。
- リースが具体的にどのようにサステナブルな社会を創るのに役立っているかを理解していただきうれしく思う。
- 講義後のレポートでは、積極的に感想、質問が書かれており熱心さがうかがえた。また、レポートから講義内容について適切に理解いただいていることが判り安心した。
- 講義後レポートで、環境やビジネスモデルに関していくつか本質に迫るようなコメントもあり、深く考えている学生さんもいらっしゃるレベルの高さを感じた。この中から当分野に興味を持ってくれる方が出てくれば嬉しい。

（ワークショップ）

- 担当した1グループの学生さんは、頷きながら熱心に聞いて下さり、質問もいくつも頂いた。2班に分かれたが、どちらも小員からの説明を元に、福利厚生やワークライフバランスよりも、仕事に対するやりがいや達成感にフォーカスした発表となっており、感無量だった。
- 「モノを扱う」ということは理解されており、何を扱うことができるのか、に興味を持っているように感じた。
- 講義後のレポートを拝見しても、自分事として捉えている学生が多く、そういった学生と触れ合えた私自身も背筋が伸びた。
- ワークショップを進めていく中で、質問もされながら興味を持って聞いて頂いたように感じた。また、グループごとに主になる学生がおり、率先しながら質問頂いたり、全体として取り組み姿勢は熱心であると感じた。
- 学生達が140字以内という制限の中、リース業界の魅力をどう発信するかを真剣に考えてくれたことが各グループの発表や講義レポートから伝わり、とてもありがたい気持ちになった。また同時に、「学生に対する認知度が低い」というリース業の課題について、当社としても改善策をもっと協議していくべきだと感じた。